

(案)

平成 31 年 3 月 26 日

八重山圏域の地域医療構想に関する合意書

沖縄県八重山地区地域医療対策会議（以下「本会議」という。）は、平成 30 年 12 月 19 日から平成 31 年 3 月 26 日までの間、八重山圏域における今後の医療提供体制について協議した結果、平成 31 年 3 月 26 日の同会議において次の事項について合意した。

- 1 八重山圏域に所在する医療機関が担うべき役割及び医療機能ごとの病床数は、別紙「八重山圏域の将来における具体的対応方針」のとおりとする。
- 2 沖縄県立八重山病院の 2025 年における担うべき役割及び医療機能ごとの病床数は、平成 30 年 12 月 19 日の会議で提示した公的医療機関等 2025 プランのとおりとする。
- 3 石垣島徳洲会病院は、急性期病床 9 床を回復期機能へ転換する。
- 4 八重山圏域に所在する医療機関は、八重山圏域における病床の医療機能ごとの需給動向等を踏まえ、不足する機能への転換を検討する。
- 5 病床の機能転換に当たっては、医療従事者の需給状況への影響を十分考慮する。
- 6 次の事項については、今後、本会議において協議を継続する。
 - (1) 病棟単位で非稼働である病床の今後の稼働見通しの確認
- 7 上記事項を修正する必要がある場合は、改めて本会議において協議する。

【今後の機能転換の見込み】

1 現状から、将来(6年後又は2025年)に向けた機能転換の見込みは以下のとおり。

- (1) 高度急性期は、増減なし
- (2) 急性期は、9床減少する見込み〔石垣島徳洲会病院△9床〕
- (3) 回復期は、9床増加する見込み〔石垣島徳洲会病院+9床〕
- (4) 慢性期は、増減なし

2 沖縄県地域医療構想で最も不足する見通しである回復期機能については、構想策定時(2015年)の44床から72床へ28床増加する見込みとなっており、4機能で最も多い増加数となっている。ただし、2025年の回復期の必要病床数189床と比較すると、依然として不足する見通しであるため、引き続き回復期機能の確保に取り組んでいく必要がある。

3 八重山圏域の基準病床数は392床となっており、現在、同圏域は病床過剰地域となっているため、新たな病床整備ができないことから、回復期機能の確保に向けて、既存病床の機能転換を進める必要がある。

